



旧津倉家住宅は、今年国の「登録有形文化財」に登録されました。そんなタイミングに合わせ、8月の土曜、日曜日の8日間、旧廻船問屋・津倉家住宅の見学会を実施しました。今回の見学会は、今までの見学会とはちよつと違います。勉強のためではなく、気軽に訪れていただきたいと願い、「寄ってきな！開いてるに！」と名づけて開催しました。

築百三十年を過ぎた旧津倉家住宅は、かつて天竜杉など北遠の木材を江戸や大阪へ運ぶための海上輸送の拠点として栄えた掛塚に数多くあった廻船問屋のうちの一軒。外から見るだけでは、ただの豪邸という程度しか分からないかも知れませんが、中に入ってみれば、天竜川を下った天竜材を使い、製材、大工や建具屋など、掛塚の職人たちの高い技術を結集したことにより、初めて出来上がった建築であることが分かります。

地域の歴史、文化や伝統が、目に見える形で詰め込まれている住宅を、扉を閉めたままひっそりと保存するだけでは「登録有形文化財」に登録された意味がありません。多くの人に見て、触れて、感じていただくことが、「登録有形文化財」の本来あるべき姿です。

階段を上がって2階に行けば「掛塚まつり」の展示。ポスターや各町の屋台の写真、「掛塚祭屋台離子保存会」が受け取った「無形民俗文化財指定証書」を始め、表彰状や感謝状などをスラリと並べて展示しました。「掛塚まつり」は、掛塚の文化と伝統の象徴。豪華な屋台やお離子が守られて来たのも、「遠州の小江戸」とまで呼ばれた掛塚に、富と文化とが集まっていたから。

今回の見学会「寄ってきな！開いてるに！」には、初めて掛塚に来た人や久しぶりに里帰りした人なども訪れ、懐かしい話を聞かせてくださいました。これからも、掛塚の歴史と文化を次の世代へと継承するため、地域の皆さんとともに旧津倉家住宅を活用していきましょう！

斉藤朋之

ちよつといーけ？

温故知新！掛塚を知る「にーさ・ねーさ」の方々に、掛塚生まれの主婦二人組(のりこ&さゆり)がインタビュー。今回は、横町の加藤正敏さんにお話を聞いてきました。

加藤正敏さん 73歳(横町)

●加藤さんが全国の屋台を調べるようになったきっかけは？

「掛塚の屋台は日本で四番目だと聞いている」って子供の頃おじいさと言ったんだ。本当ならスゴイ事なんだけど、僕は高校生の頃は友達とあちこちのお祭りを観に行ってたし全国の屋台祭りも調べていたから日本三大曳山祭り「埼玉県の秩父夜祭り」「京都の祇園祭り」「岐阜の高山祭り」、その次が「掛塚祭り」って事はあり得んと疑問に思ってたんだわ。卒業して若者組織に入った年の屋台組立ての時に先輩から「あの部品を持ってこい、あの彫り物を持ってこい」って言われても全く知識がないから分からない。他町の同級生たちも同じでこれだけの屋台を持っていて何も知らないのはまずい、これは勉強しなきゃいかんかなと思ってあちこちの図書館へ通い詰めて独学で彫り物や建築の勉強をしたんだわ。(きつかけは)そこら辺からかな・・・。



パソコンがない頃は日本全国の観光課にハガキを出して観光パンフレットを送ってもらった。それに屋台が載ってればとりあえず車で行ってみる。夜立ちで朝着いたら仮眠をとって朝8時頃から行動するんだわ。屋台の写真は何百枚も撮って地元の人に話を聴いたり資料をもらったりね。それを持ち帰って再度確認するの。金具は誰が打ったとか、彫り物や刺繍の題材とかね。時間がかかる作業だけど今でも一年中そういうことをやっている。まだまだ興味は尽きない、死ぬまで。(笑)

「たかが屋台」だけと「されど屋台」でね。屋台は美術工芸品の塊。彫り物や刺繍や金具とかね。金具は愛知県は仏壇、滋賀県は鉄砲や刀、富山県はお寺の梵鐘ってそれぞれ地域の職人の技術が活かされている。こういうのを見だすとときりが無い。地域ごとに屋台の魅せ方や使い方(子供歌舞伎など)もみんな違うんだ。

●古さからすると掛塚屋台は？(明治時代の数度の大火で砂町、横町、田町、中町の屋台が消失しています)

現在の屋台は平均すると建造から二〇年〜三〇年ぐらいい。(大当の屋台は二〇〇年以上)全国には三五〇年ぐらいいの屋台がたくさんあるから掛塚屋台はまだまだ若い。明治時代の大火事で古文書が消失しちゃったから古い屋台の事は分からないんだわ。

※今と昔・・・掛塚祭りは本来夏祭り(八月)で大当町の古い写真を見るとみんな浴衣を着てる。戦前は今みたいな練りはなくて神輿の渡御に肅々と厳かに屋台が着いて行つたとおじいさも親父も言っていた。今はそんな事しないけど昔は屋台の横から降り降りしたり、子供たちが屋台の中でお菓子を食べて天幕の裏で(汚れた)手を拭いたりしてた。

MINATO CLUB
掛塚
ESTD.2016

第30号

P1 旧津倉邸の公開「寄ってきな！開いてるに！」

P2 「第2回夏休み子ども写生会津倉邸を描こう」を開催

P3 賛助会員の方々と交流が実現

P4 ちよつといーけ？「加藤正敏」さん(横町)

今回お邪魔した事務所(資料室かな)には正敏さんの探究心の強さ・深さの「証」がぎっしり収められ、「祭り好きな人」の会合場所にもなっているそうです。掛塚育ちなのに知らなかった天幕や彫り物などの解説はとても面白くお祭りで見物するのが楽しみでした。さて皆さん、天幕に大黒様が鯛ではなく「フグ」を釣り上げ驚いている刺繍があるのはどの町でしょうか？(笑)

取材・記事のりこ&さゆり



富山県八尾の曳山 飾り金物



愛媛県西条まつりの屋台 彫り



秋川雅史さん

してた。屋台を解すとお菓子やなんかの食べカスがいっぱい出てきたんだわ。

※私たちの町(す組・よ組)の屋台の魅力を教えてくださいました(一部紹介です)

- ・砂町の金箔は他の町に比べて厚い。薄い金箔を何枚も貼るのではなく厚い金箔を貼ってあるので色が濃い。火災の難を逃れた江戸時代の天幕、他町と比べて幅が狭いのは先代の屋台が二階造りだったから。
- ・横町の天幕は令和元年に新調復元され、中国の王子喬(おうしきょう)など五人の仙人の刺繍がとても大きく刺繍されている。腰板に使われているケヤキ(玉杵入り)の一枚板はそんじょそこらにはない価値あるもの。

●掛塚祭りにテノール歌手の秋川雅史さんがやってきた(千の風になつて)

5年前の祭りに知人から頼まれて歌手の秋川さんを案内したんだ。秋川さんは趣味で彫り物(仏像や龍などを)をしていて友人から「掛塚の屋台がきれいで良い」と聞いて見に来たつて。本町上や貴船神社で屋台を見て写真を撮ったりして「屋台が良かった。やっぱり噂以上だね」って言っていた。「来年は秋川さんの所(故郷の愛媛県西条市の祭り)に行くからな」って言って実際に行ったの。四国を渡って車で12時間。屋台が80台も出るお祭りだから夜中でも神社の中はすごい人だった。まさか会えるとは思わなかったけど会ったの。「あつ、加藤さん！なんでこんな所で！」って。秋川さんもびっくりしてた。(笑)

8月19日(土)

「第2回夏休み子ども写生会 津倉邸を描こう」

2回目の今年も「津倉邸を写生しよう」と、子供たちが絵筆を運びました。今年も、参加したみなさんの絵心が高く、描きたいものが決まると自ら進んで表現していききました。中には、津倉邸の公開日に事前に下見をした子もいました。私たちの住む町を絵で表現する。その絵を見て、この町の良さを再発見する。このような子供たちの活動が、私たちの心に感動を与えてくれます。

子どもたちが描いた絵は、10月21日〜22日の掛塚祭り・津倉邸公開日に、作品展の中で多くの人に鑑賞していただく画をしています。

写生会当日は、西小学校の校長先生と教頭先生がお見えくださりました。

夏休み前に、学校での子供たちに写生会の案内など、ご協力いただき感謝申し上げます。

まだまだ小さな試みですが、第3回の写生会開催、そして掛塚を描く写生会に発展して行ければと思います。地域の皆様のご協力をお願い致します。

福長昇



暑中、一生懸命に描いてくれました！



庭の花を描く子は、黄色い花をかわいらしく描きました。画面に広がり花の香りを感じさせます。

伊豆石の蔵を描く子は、石の質感をだすために、絵の具の濃淡や水の濃淡と筆を上下左右に運ぶなど工夫をして塗っていました。

ペンで、緻密に津倉邸の母屋を描く子の作品は、建物構造がよくわかるような、そして黒単色でもおもしろく感じます。庭石も描き加えて、絵に広さを感じさせます。



● 西小学校4年生 下野ゆうき君

伊豆石のお蔵を描いてくれたゆうき君、色の使い方が上手ですね。

Q. 一番難しかった所は？

この茶色いところ (二階の窓のあたり)

● 西小学校2年生 下野みさとさん

昨年はお姉ちゃんと、そして今年はお兄ちゃんと参加してくれました。

Q. 一建物よりお花を描く方が好きですか？

うん。

よく観察して葉っぱも細かくていねいに描けていますね。



● 西小学校3年生 金子じゅんや君

Q. 今日来てくれたきっかけは？

社会科見学会の時に「津倉邸の写生会をします」って言ってたのでやりたいなと思って来ました。

Q. 建物の細かいところまで良く描けてるけど色は塗らないの？

色は汚くなっちゃういそうだから塗らない。いつもそうだから。

Q. 一番難しかった所は？

屋根の辺りが変になっちゃって(鬼瓦とか)難しかった。けど楽しかった。

7月22日(土)

賛助会員の方々との交流が実現 掛塚のまちづくりを熱く語り合いました

7月22日、みんなと倶楽部・掛塚の初めての試みとして、賛助会員の皆様をお招きして、私たちの活動に対するご助言を頂くとともに、日頃のご協力に感謝し、より親交を深めたいと「夕涼み会」を開催しました。

賛助会員の皆様には、賛助会費を支援していただき、こちらからは広報紙をお送りして、活動の状況や町の様子をお知らせしています。現在68人の方が賛助会員になっていただいています。多くは掛塚に生まれ育って町外へ出た方で、ふるさと掛塚が元気になることを願ってくださっている方々です。今回の返信にも、「会報、楽しく読ませていただいています。26年間過ごした掛塚ですが、知らないことが多く、今になってふるさとを再発見をしています」「皆様の活動をお便りで拝見し、地域の小中学校の子ども達や住民の方達との交流に感動しています」などのお便りをいただいています。

また、私たちと同じようにまちおこしの活動に携わっている方もたくさんいらっしゃいます。今回も、二俣の田代家を管理している「鹿島田代家交流振興会」からは3人が参加され、「天竜川を通じて上流、中流、下流の皆さまとの交流が出来れば」と、掛塚との連携を提案されています。また、緑十字機の歴史を広める活動をされている「緑語会」の方からは、「福長飛行機研究所は、掛塚の偉大な財産ですね。もつと全国レベルで有名になるべきです」とエールが送られてきました。新居の小松楼を拠点に活動している「新居まちネット」や掛塚の町並み見学に訪れた「都市計画家協会」の皆様など、まちづくりを進めていく上で力強い味方が一杯です。

再来年は、会が結成されて10年目になります。10年を期して私たちの活動をさらに発展させる方策を、今から考えていかなくてはなりません。会員内部では、講演会・シンポジウムの開催、スタンブラーや掛塚寄席などの記念イベント、案内板の設置や記念植樹、記念庭園整備など様々な案が出されました。長期の展望では、掛塚に屋台会館や歴史資料館を設置するとか、廻船問屋を繋いだレトロな景観の創出など、夢のある計画が提案されています。会員OBからは、「掛塚の歴史に関する連続講座や、年配者が小中学生を相手に『昔の掛塚の思い出』を語るイベントはどうでしょうか」と提案がありました。

賛助会員の皆様にもご意見を伺いましたが、読者の皆様方も、掛塚を活気あふれるにぎやかな街にしていきたいには、これからどんな取り組みが必要か、是非ご意見をお聞かせいただきたいと思います。

名倉慎一郎



会員・賛助会員・ボランティア会員募集！

「みんなと倶楽部・掛塚」は、湊町掛塚の歴史を刻んだ貴重な文化財を守り、郷土の文化遺産として後世に引き継いでいくことができるよう、旧津倉邸の維持管理に協力しながら、掛塚地区が活気のあるまちになるための活動を展開していこうと考えています。私たちと一緒に活動していただける方を募集しています。是非、ご参加ください。



正会員

運営・企画に携わっていただけます。年会費 3,000円をお願いします。

賛助会員

会を側面から支えて頂きます。会への行事も自由にご参加ください。

1口 1,000円の年会費となります。

ボランティア会員

会の事業・イベントに、いつでも気軽にご参加ください。会費はありません。小・中・高校生の方も気軽に参加してください。

振込先はこちら

静岡銀行 竜洋支店 普通預金
口座番号 0418125
名義：みんなと倶楽部掛塚代表 池田藤平
ゆうちょ銀行 店番 238 普通預金
口座番号 5027208
名義：みんなと倶楽部・掛塚

